

ビジターセンター行事「アカトンボ観察会」

- 1 日時：令和2年10月18日（日）午後1時30分～3時30分
- 2 参加人数：13人
- 3 講師：保崎有香 氏
- 4 講座の内容

(1) 開会の挨拶（内野）

今年はアカトンボの見られるのが例年より遅く、また、これまで見られる頭数が一桁と少なく心配していましたが、今週水曜日ぐらいから増えており多い日には50頭以上確認できています。今日は午前中「おけがや自然塾」でアカトンボ観察会を行いました。20頭程度見ることができました。通常午後には頭数が増えますので、午後はさらに多くの頭数が見られると思われます。期待してください。

今日の新聞で、桶ヶ谷沼で71種目のトンボ「ハネビロトンボ」が発見された記事が掲載されましたが、発見された甌塚の水辺にも行きますので、そのトンボを見られるといいです。

(2) 講話および事前説明（保崎）

一般には、赤やオレンジ色をしたトンボのことをアカトンボと呼んでいますが、正式にはトンボ科アカネ属に属するトンボをアカトンボといいます。日本には21種類のアカトンボが確認されていますが、桶ヶ谷沼にはそのうち12種類を見ることができています。

（以下代表的なアカトンボの特徴を説明しました。）

- ・アキアカネ：初夏に羽化し、しばらく生活したのちに山に移動し、涼しくなった秋に里に下りてくるアカトンボ。最もポピュラーにみられるアカトンボ。
- ・ナツアカネ：アカトンボのように登山はしない。オスは真っ赤になる。
- ・シノメトンボ：アキアカネやナツアカネより大きいトンボ。翅の先が赤っぽい。
- ・コシノメトンボ：シノメトンボより小さく、赤っぽい。翅の先が赤っぽい。
- ・ヒメアカネ：全体的に小さい。ヒメとは小さいという意味。尾の部分がまっすぐ。
- ・マイコアカネ：顔が特徴。口の部分が青白っぽく舞妓さんを想像させるのが名前の由来。胸部はトラ柄。
- ・マユタテアカネ：顔に見られる黒い部分が人のマユのように見えるのが名前の由来。
- ・リスアカネ：翅の先が赤っぽい。シノメトンボと似ているが、胸が黄褐色。
- ・ネキトンボ：翅の付け根が赤っぽい。

桶ヶ谷沼では、アカトンボではないが赤い色をしたショウジョウトンボやオレンジ色をしたウスバキトンボもみられます。

今日の作業はアカトンボマップを作ることです。どこに、何のトンボがいて、何をしていたかを地図にシールを張ってください。トンボを網で捕まえてビニール袋に入れてセンターに持ち帰り観察もしますが、観察したら放してあげましょう。

(3) 調査・捕獲（保崎）

- ・センターを出てから木道までの間で、桜の木に多くのアカトンボがとまっていました。アカトンボを網で捕まえ、観察用のビニールに入れ、トンボの名称、オス・メスの区別を行いました。
- ・捕まえたメスの数頭が捕獲直後に産卵を始めたのでバットに水を入れて産卵させ、卵の観察をしました。
- ・木道では、竹竿の先にとまっているアカトンボの数を調べました。13頭でした。
- ・甌塚の水辺ではハネビロトンボのヤゴやクロスジギンヤンマのヤゴをコンテナから網ですくいバットに入れて観察しました。同じバットに何頭か入れておくと一部のヤゴの間で共食いが起こっていました。

(4) センターでの調査・マップ作り

- ・捕獲しビニール袋に入れたアカトンボの、種類、オス・メスの区別を調べました。捕獲したトンボはすべてアキアカネでした。
- ・どこに何の種類のアカトンボがいて、オスかメスか、何をしていたか（休んでいた、餌を食べていた、パトロールしていた、交尾中だった）を示すシールをマップに貼り表示しました。
- ・作成したマップはビジターセンター館内に展示しました。



講話
アカトンボについて説明を受けました



捕獲
桜の枝にとまっていたアキアカネを捕まえました



メスの産卵
翅をもち尾を水につけると卵を産みはじめました



木道での頭数調査
竿の先に全部で13頭とまっていた



ヤゴの観察
ハネビロトンボとクロスジギンヤンマ
のヤゴを見ました



マップ作り
種類、オス・メス、何をしていたかをシール
で表示しました